

## 令和4年度 第3回総合教育会議 会議録

開催日時	令和5年1月27日 金曜日 13時30分から15時00分まで
開催場所	二宮町町民センター3Bクラブ室
出席者	村田邦子町長、森英夫教育長、野谷悦教育長職務代理者、 岡野敏彦教育委員、藤原直彦教育委員、杉本かおり教育委員
町部局	政策部長
教育委員会	教育部長、教育総務課長、教育総務課課長代理、生涯学習課課長代理、教育 総務課指導班長、教育総務課教育総務班長
その他	傍聴 1名

※会議次第および資料は、別添ファイルのとおり

### 会議記録

#### 1. 開会

(司会：教育部長)

定刻となりましたので、令和4年度第3回二宮町総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、本会議については、公開傍聴が原則となっています。傍聴希望者の方がいらっしゃいますので、傍聴の許可をしてもよろしいでしょうか。

#### 傍聴許可～傍聴者案内

それでは、傍聴の方が入室されましたので、再開いたします。それでは、町長挨拶をお願いいたします。

#### 2. 町長挨拶

(町長)

本日は三つほど、協議、調整事項がございます。教育大綱については議論を重ねてきましたので、本日決めたいと思います。小中一貫教育は順調に進んで、令和5年度から分離型が始まります。新しい課題としては、部活動の今後に向けての話になります。本日も有意義な意見交換をよろしくお願いいたします。

### 3. 協議・調整事項

(町長)

それでは、協議・調整事項の1番目、二宮町教育大綱の改定について、事務局の方から説明よろしくをお願いします。

(教育総務班長)

第1回の総合教育会議から議論を重ね、会議後も教育委員さんからご意見をいただきながら進めてきました。年度当初は、基本理念は大きく変更せず、基本方針の文言修正をしていきたいという話をさせていただきましたが、総合計画の見直しもあることから、基本理念も含め改定を行いました。基本理念には「多様性」という言葉を使わせていただき、基本方針は言葉の修正、順番の入れ替え、言葉の削除などをさせていただき、全体的に総合計画と整合を図りながら改定をしました。

以下 教育大綱の改定版の読み上げ

(教育総務班長)

本日、内容の確認をしていただき、今後、町の政策会議等に報告次第、町のホームページに掲載をさせていただきます。

(町長)

これまで何度も議論を重ねてきましたが、何か付け加えることなどありますか。

(野谷委員)

話し合いを積み重ねてきたので、教育大綱についてはこれでいいと思います。今、教育委員会の基本方針を話し合っており、大綱の中身を実現していくために、具体策が大切になると思います。本日は町長がいらっしゃいますので、ぜひ財政的支援をよろしくをお願いします。

(町長)

様々な課題が積み重なっていますから、財政的措置についてはわかっています。予算査定では、削るところは大胆に削っていますし、新しい課題に向き合っていかなければいけない部分が多々あると思いますので、その辺はしっかり進めていきたいと思っています。

(教育長)

教育委員会の基本方針については、古くから使ってたものについて、ここで大きく見直しをします。教育大綱の方が教育委員会基本方針より後から作られたものですので、整合性がとれていない点がありました。そこも含めて令和5年度に向けて整理をしています。

(藤原委員)

教育大綱は、会社でいえばビジョンに近いものかと思います。会社では繰り返し繰り返し、社長なり社員なりが、復唱してようやく根づいてきます。せっかく決めたものですので、我々も何かあれば必ず見たり読んだりして無意識に確認することをやり続けたいと思います。会社と違って5年間変わらないことは決まっていますので、その間は常に意識していくことをやっていければいいと思います。

(岡野委員)

教育大綱に定められていることは時代とともに変わっていく要素と、変わらない要素がありますが、土台の部分をしっかり作り上げたことが大事なところだと思います。それを実現するために、1年2年で状況が変わっていくことはあると思いますが、柔軟に対応し、新しいことも取り入れながらしっかりと定着させていくことが大事だと感じます。

(町長)

ご意見ありがとうございました。教育大綱については、これで進めてまいります。それでは次に、小中一貫教育について事務局より説明をお願いします。

(指導班長)

今年度の取り組みの成果と課題について、確認をさせていただきます。まず、カリキュラムワーキンググループ検証授業についてです。教科ごとのグループに分かれ、カリキュラム研究を継続して行ってきて、今年度は、学習内容が高度化する小学校5年生から中学校1年生の中で、つまずきやすい学習単元に焦点を当て、指導方法について検証を行いました。活動の中で授業改善に繋がることを見つけることができましたし、それ以上に小学校中学校の教員同士の交流を図ることができたというのも、大きな成果であると考えています。その中の一つに特別活動に関することがあり、このグループでは、現場の先生方の発案で小学校6年生と中学校の生徒会が交流できる機会を令和3年度に新たに設け、今年度も同じように実施することができました。児童生徒双方にとって、非常

に学びの大きい貴重な時間になったと聞いております。続けて、異校種体験交流事業についてです。この事業自体は、小中学校の教員が異校種の文化を肌で感じ取るために計画した事業です。これについては、確かに学びはすごくあり、意義もあるけれど、教員が1日クラスを空けることの負担感が非常に大きかったという課題が上がりました。施設一体型が間近に迫っていれば、より高い効果が期待できますが、当面分離型を続けていく中では、どうしても負担感が意義を上回ってしまうような状況という課題があります。校内研究についてです。これは、引き続き吉新先生に関わっていただき、5校共通で取り組んでいる学校研究になります。成果としては、中学校の授業が変わり始めたというところが大きいと思っています。これまで以上に活発な話し合いが中学校でも行われるようになって、先生たちも確かな手応えを感じ始めているところです。この研究自体、1年生から中学校3年生まで継続して行うことに意義があるかと考えておりますので、引き続き、低学年から9年間を見通して共通性と一貫性を持って、この取り組みを続けていくことで、子ども達に必要な能力育成をしていきます。こうした成果や課題が出た上で、改めて来年度の計画を考えました。来年度から、にのみや学園として、5校が一つの組織になりますので、このプロジェクトの名前自体を「にのみや学園プロジェクト」という名前にしました。にのみや学園プロジェクトとして取り組む内容は、大きく三つあります。一つは小中一貫ワーキンググループプロジェクトです。令和4年度に引き続きカリキュラム研究を、この事業では行っていきたいと考えています。加えて、今年度の夏に実施した児童生徒のアンケート結果から、部活動や授業に大きな期待や不安を持っていることがわかりましたので、部活の体験回数をこれまで以上に増やしていきたいと考えています。また、総合的な学習の時間で行われる、中学生の本気のプレゼンを高学年の児童が見れるような機会を設けていきたいと考えています。やはり小学生にとっても、身近な目標、憧れを持つという意味で大きいと思っていますし、中学生にとっても、意識の高まりに繋がるなど、双方にとってメリットは大きいと考えております。教育委員会としては、子どもたちがこのプロジェクトの中で、移動しやすいように、或いは先生方が、クラスを空けやすいように、移動や後補充の予算をできれば確保したいと考えています。異校種体験交流事業については、負担が大きいという声もありましたので、来年度は一旦ストップにしたいと思っておりますが、このプロジェクトの中で先生がちょっと早めに行って様子を見るとか、昼休み遊んで様子を見るとかでも、十分、異校種の文化というのは、感じ取ることができると思っています。そして、二つ目が、小中仲良しプロジェクトです。これについても、子どもたちのアンケートから同学年との関わりを期待している声が非常に多くありました。同じ中学生になる子どもたち同士が、小学校の段階から少しずつ交流を図って、中学校への滑らかな接続に使っていきたいと考えて、新たにプロジェクトを立ち上げました。ここでは、運動会や遠足を一緒にやろうという大きなものではなくて、日々の教育活動の中で、この教科

を一緒にやると高い効果が見込めるなど、そういったものから少しずつ、負担のない形で始めていきたいと考えています。このプロジェクトについても、子ども達の移動が伴っていますので、移動手段についても、予算の確保を考えているところです。そして、三つ目の校内研究プロジェクトについては継続ですので、今年度の成果を踏まえ、引き続き来年度も進めていきたいと考えています。見通しとしては、令和6年度に小学校からこの研究をした子どもたちが中学校に全員揃うことになりますので、令和6年度をこの研究の成果を検証する年にしたいと考えていて、それ以降は令和6年度に判断したいと考えております。この三つを、にのみや学園プロジェクトとして、来年度以降進めていきます。なお、一色小学校の子どもたちは中学校に上がるとどうしても、マイノリティーになってしまいますので、この三つの事業を行っていくことで、少しでも一色小学校の子どもたちの課題解消に繋げていくことができるとも考え計画をしました。

(町長)

にのみや学園プロジェクトについて、何かご意見ございますか。

(野谷委員)

移動手段の確保などが担保され、予算の中に盛り込まれた話は聞いていますので前進したと思います。小中一貫の効果としては施設一体型が一番良いと思いますが、分離型でも小中の先生方が教材研究を一緒にやる中で少しずつ前進してきているように思います。私は、長年小学校の先生をしていましたが中学校の事はわかっていませんでした。中学校の先生も小学校のことがわかっていなかったと思います。どこに重点を置かなければならないとか、一緒にやる中でわかってきているので一定の成果が上がってきていると考えています。

(岡野委員)

カリキュラムワーキンググループの内容を教育委員会の定例会で紹介していただいたことがありました。その時は算数の話でしたが、分数については整数の意識がすごく大事だと聞いて、小学校から中学校へ行ったときに、そこから先への発展、繋がりの部分をご紹介いただいたのはすごくよかったです。簡単な事例でもいいので、何か皆さんに紹介していただけるようなシーンがあるといいなと思います。小学校の図工と中学校の美術の違いとか、双方の先生が意識すると繋がっていくということを感じました。

(町長)

実例紹介は、どの場で、誰に向かって、どんな形ですか具体的なイメージはありますか。

(岡野委員)

町のホームページで紹介するのもいいと思いますし、PTA 向けもあると感じています。具体的に今は出てこないですが、保護者の方に小中一貫の意義とか、カリキュラム研究の意味など紹介できればいいと思っています。

(町長)

先生方がこれだけ苦労して時間をかけてやっているのに、ぜひ知ってもらいたいと思っていますし、学校で何が行われているのか外から見るとわからないのもったいないと私も感じています。

(教育長)

学校に行こう週間というのが秋にあります。保護者の方や地域の方が自由に入って、授業が見れますが、そこでは具体的に説明ができないと思います。例えば学校に公開授業をお願いして、授業公開の中で説明も加えられるような場面ができればいいと思います。次の話題になります。リーフレットができますので、これを基に、各学校運営協議会やPTA総会などで話をしていくのも一つかと思えます。この学園構想については、まだまだ周知しきれていないところもあるので、できる限り、あらゆる場面を使っていきたいと思っています。

(教育総務課長)

今後は学級だよりや学年だよりなどでも紹介していく文化ができればいいと思っています。

(岡野委員)

美術の話聞いた時、色の三原色は大事という話で、もっと先には、実際の世の中でこんな風に使われているというところまで伝えられれば、それが社会に繋がっていくと思います。題材に使えるものは何でも使えばいいと思うので、ぜひ伝えていただきたいなと思います。具体的な活動が見えると、なるほどという感じがもっと深まると思います。情報発信の中身をもう一段掘り下げていただければなと感じるところです。

(藤原委員)

いろいろな方から分離型だと意味がないとか、どう変わるんだとか言われるかもしれませんが、絶対いいと思いますというのを信じて進めるということかなと思います。先生方は子どもたちと触れ合っていく中で授業が変わると実感を得られると思います。一方で、地域の方は子どもの変わり方が具体的にわからないとすると仕組みを変えながら、どういうふうにコミュニティスクールに関わるべきかを発信していくことかなと思います。今回は時間もあまりなかったこともあり、コミュニティスクールは別々になることは理解していますが、視察に行った三鷹市もおおさわ学園はコミュニティスクールで一体ですと言っており、おおさわ学園全体でコミュニティスクールを1個持っていて、そこが連携していると言っていました。コミュニティスクールの方は先駆けて、しっかりと地域との役割はこういうことだからと引っ張っていけるとと思います。制服を考えるなど、二宮全体でやっている教育を保護者の方たちにも伝わるようにしていければいいかなと思います。さっきの実例の話などは、保護者に伝えたい気持ちもありますが、外への発信を意識した方がいいかなと思っています。それこそ移住の人達も含めて、そこに発信できれば結局中の人たちがそれを見て循環していくこともあると思いますので、保護者向けに特化せずに、どうやって外に出せるかということ意識していただけたらいいかなと思います。

(教育長)

先進で進めている山西小学校あたりに公開授業という形で中地区とか県内の先生方に見ていただけるような機会を作ってもらえたらありがたいなと思い、お願いしようと思っています。小中一貫分離型についての取り組みは、二宮が先行はしているけれど寒川町とか葉山町も追随して、小中一貫分離型の取り組みをしようということを各町の教育長がお話されていました。実際に研究を進めていて、中間報告も見せていただきました。神奈川県内でも分離型への動きが始まってきたことを承知していただければと思います。

(町長)

先生方の研究発表は、年に何回かやりますよね。例えばそれをビデオとか、記録は駄目ですかね。そういうのをホームページなどで常時見れるといいですよ。個人情報の問題はあるのですが、後ろから映してみるとかどうですか。

(指導班長)

ホームページでは何を学ぶかしか載っていないで、どう学んでいるかというところが、なかなか載っていないのですが、そこを知ることが一番面白いところなのかなと思います。具体をいっぱい積み上げていくことによって、地域の人々の信頼なども得られるかなと思います。この辺り、誰がどんな情報を出すのかというところは、工夫していきたいなと考えています。

(町長)

そういうのを作っておくと、これから小中一貫をやろうとしているところの参考にもなると思います。

(教育総務課長)

このプロジェクト自体も、嬉しい事は教員が言ってきたことが多く、中学校の生徒会の子が小学校に教えるに言ったことなども先生発案でやってくれました。あとは、それをどう発信していくかというところですね。

(町長)

日時を教えてもらえれば行ける人が見に行くことで第三者や地域にも話せるかなと思いますので教えてください。それでは、次にリーフレットについてご説明をお願いします。

(指導班長)

リーフレットは、まだ完成状態ではなく最終チェックをしているところです。スケジュールとしては、2月に保護者向けに発信したいと思っています。表紙のところが目に入るかなと思い、4枚の写真を試行錯誤し、この状況にまともになっています。コンセプトとしては、左側の上の部分が、低学年の話し合いを中心に進められている授業の様子。左下側が中学年の子ども同士で学び合いをしながら授業を進めている様子。右下が、小学生の中で異学年交流をしている様子。そして、右上が中学校の生徒会と小学校6年生が交流している様子になります。この4枚の写真で、9年間の中で様々な子ども同士の関わり合いや交流を通し、その成長を支えていく教育を行っていきたいというメッセージを町としては伝えることができたかなと考え、写真の並び等も最終チェックしている状況です。中を見ていただくと、左側が、小中一貫教育目標。その下が、にのみや学園の構成図、そして下がアンケートの結果、右側が、アンケートの結果等に基づいて組み立てられた、にのみや学園プロジェクトの概要について記載してあります。一番下のところに、中学校の制服の見直しについて

の検討を始めますと書いてありますが、多様性の尊重の観点、費用負担、機能性の向上というところで、制服の見直しもこのタイミングに合わせて行っていきたいと考えていますので、その点についても記載をしてあります。裏面の方は地域の方や保護者の方が疑問に思うであろうことを、Q & Aという形でまとめてお知らせの方をしているという構成になっています。

(町長)

2023 と書いてありますが、リーフレットは毎年 1 回出しますか。

(指導班長)

特集みたいな形で何か出していければと思います。

(町長)

施設はそのままで小中 5 校が一つの学園にと書いてありますが、一体型を目指していくうえで「まずは」とか入れられませんか。

(野谷委員)

施設一体型について、あまり触れていないというところがあり、知らない人は、二宮の教育は分離型のような印象があると思います。「まずは」という言葉の提案について賛成です。

(町長)

研究会については知らない人が多いので、何かその年のまとめなどがあるといいと思います。

(教育総務課長)

学園だよりなどを出して、今やってることを周知してもいいと思っています。

(藤原委員)

配布をした後、保護者が疑問に思ったときは教育総務課に連絡がいくとは思いますが、何か解説をするような場を設けるとか、我々教育委員としてもやった方がいいかなと感じました。これだけでは伝わらないところ、何かこう前向きに解釈するために間を埋めにいくようなことを積極的にやらないといけないと考えています。

(教育長)

保護者に配るのは2月ですが、各学校の学校運営協議会が年度内にありますので、そこで私から説明させていただきたいと思います。また、各学校で年度初めにPTA総会などがありますので、そこに呼んでいただければ紹介させていただきたいなと思っております。公的なものではないですが、元気なコミュニティ協議会の方から講演の依頼を個人的にいただきましたので、これを基に話をしたいと思っています。

(藤原委員)

保護者や地域に説明するのも大事だと思いますが、後進の先生になりたい人を増やして欲しいと思っています。二宮で先生になりたい方を増やすためにもアピールをしてもらいたいと思います。

(町長)

ぜひ、これも使いながらあらゆる媒体を使って、PRをしていきたいと思っています。よろしくお願いします。それでは次に部活動のあり方についてですね。よろしくお願いします。

～教育総務課課長代理より部活動の地域移行に関する取組と課題について資料読み上げ～

(町長)

地域移行については、スポーツ協会とだけ調整をしているのですか。

(教育総務課課長代理)

現時点ではスポーツ協会の会長、副会長さんに主に話をし、会長、副会長さんから町の各協会の方には適宜話をおろしていただいていると聞いています。

(町長)

例えばバレーボールについては、バレーボール協会が無い中で、指導者の人はどこの誰でどうやって見つけてきたんだろうかと思うと、団体に所属せず個人的に入っていいものなのかなど、どこかで話さないと進まないと思います。いろいろな角度から見て話を進めていかないと、保険の話、安全性の問題、報酬の問題など様々な課題があると思います。

(教育総務課長代理)

協会に所属している人もいれば、所属していないが元保護者で指導できる方などいろいろな方がいますので、どこかのタイミングで情報共有をしていきたいと校長先生とは話を詰めているところになります。

(教育総務課長)

正直事務局も想定しきれてないところがあります。指導したい方がたくさん出てきた場合なども考えていかなければと思います。制度設計までは、スポーツ協会に登録されている方と話し合って、今後は各論に入っていくと思います。その中で、例えば指導資格をどうするのかなども検証課題として、検証していきたいと思います。

(町長)

学校、地域、保護者の連携は、今までも部活に関して何か持たれていたのでしょうか。

(教育総務課長代理)

年一回はあったと思います。今後は学校で部活動の保護者会をやる際に、地域の方や指導者にも来ていただいて、保護者の方にも紹介をし、休日をお願いしていくということになると思います。

(教育総務課長)

受益者負担関係も未だに曖昧です。こちらとしても見極めながら検証を行っていきませんが、令和5年度中に検証結果が出るのは難しいとも思っています。完全移行というのは、土日の随行も含めてですが、最初は顧問の先生と指導者等と一緒にいきながら引き継いでいくことも考えられます。

(藤原委員)

指導者が2人いた時の方針として、監督がいない時コーチはその指示のもとにやっているとしても試合は休日にあって、休日にコーチだけで試合にはならないような気がします。地域の方が監督だとしたら監督が見てる時間の方が短いというのがチームを作るうえで成り立つのかどうか。それなら地域の人に平日も来てもらうような選択肢の方が現実的なのか、検証の中でそういう関係性ができるのか、地域の人でも平日いつも出てくるのか、チームづくりをしていく中でどういう体制ならできるのか、教員の負荷が低いのはどういうときなのかとか、場合を分けて検証してみて、最後はどのやり方にするのか、保護者や子どもの声も聞いて、強くなりたい人が多いなら強くなれる体制を

できれば目指すなど、いろいろな視点で見えていただいて、その結果をまた議論させていただくことができたらと思います。

(町長)

まずは土日からですが、国としては平日も見てもらうという方向でしょうか。平日を含め、全てを地域に任せるのは難しいからまずは土日という言い方をしてるだけですかね。

(教育総務課長)

国の制度を見た時に平日休日問わずに部活動を学校の教育課程から社会教育に切り離していく方向性だと感じました。スポーツ庁も、平日でも見てもらえるところから見てもらってくださいと色濃く出し始めてるので、そこが最終ゴールかと思います。一方で今の段階では、土日の部活動は、例えば対外試合や大会だけは、顧問の先生と一緒に一緒について行ってもらうことも考えています。レクリエーションや親睦、子どもの居場所という意味で活動をやってる部活も結構あるので、住み分けていかないと今のまま移行というのは難しいと思っています。

(町長)

部活に所属していない生徒はどれくらいいますか。

(教育総務課長代理)

部活に入っていない生徒は2割から3割いると聞いています。

(教育長)

子どもたちのニーズを聞いて、学校教育としてどこを担保するのかいうところも考えていくと良いと思います。

(町長)

ニーズを聞くのもいいとは思いますが、これを機会に教育委員会の部活への方針を決めて示していった方がいいと思っています。ニーズを聞くのであれば所属していない子にも聞いた方がいいと思います。

(藤原委員)

皆さんに聞いて把握した上で、教育委員会として部活をどのように位置づけるかを決めていった方がいいと思います。今だと現場に任せてますが、そうすると土日やりたいところは土日やっているみたいなことが起きてしまいます。いろいろな意見を聞いて対応した上で決めるためには、まず、中学生がどう考えているかということをベースに議論し、加えて先生がどういうふうに思っているのかを聞けるといいのかなと思います。負担を増やす方向にはならないと思いますが、なるべく合意する場所を探す意味でも、意見があった方がいいと思います。

(教育総務課長)

顧問の先生に聞くと部活動はレクリエーションや親睦を目指して活動してますという数がかかり多かったです。そういったところから、土日はフランクに通えるような感じで、校庭を使ってもらうとかも考えられます。一方、上昇志向のある方はクラブチームに所属されているでしょうし、そうではないお子さんについても居場所をキープし、なおかつ教員の働き方も含め土日の部活動をどこまでやるかというところを方針として出していく必要があると思います。

(町長)

将来的には平日も移行していくかとも思いますが、今はまだ始まったというところでよろしいでしょうか。予算については来月の教育委員会議で説明をしていただければと思います。働き方だけでなく、義務教育自体が変わって来ていると感じています。そういう中で、現実に即した予算をつけていかなければと思ってます。昨今、日経にも教育の特集が含まれていて、不登校問題をどうするか、フリースクールをどうするか、連日のように出てますよね。そこに出てくるのはNPOとか民間の方で、税金だけで解決するんじゃなくて、民間のそういった部分も含めて解決していく時代に入っています。部活の問題も同じだと思います。今後も、建設的な議論がこの場でできるといいなと思ってます。

(岡野委員)

日本の人材育成そのものが問われているのだなというのは、いろいろな記事を読んだり、見たりして感じてます。今の世の中で活躍できる人材の特徴を見ると、自分でばりばり目標決めて、自分はこれで行くんだというマインドを持ってる人が前進していける世の中ということ強く感じてます。活躍できるような人材を生み出していくため、どうすればいいんだろうっていうのは、企業も本当にみんなで悩んでいます。その中で日本の義務教育が何を果たすべきなのか分析するような時期に

来てるというように感じます。部活動はそもそも何のためにやっているのか、根本に立ち返る状況になっていますので、いろいろな視点で考えていければいいかなと思います。

(町長)

それでは、よろしいでしょうか。事務局の方からは何かございますか。

(事務局)

特になし。

(町長)

それでは、これで総合教育会議を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。